

クボタシーアイ株式会社 小田原工場

1 工場概要

- ▶ 住所 〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂7-6-1
- ▶ 従業員数 207名（平成23年4月1日現在）
- ▶ 敷地面積 61,292m²



2 事業概要

▶ 主要製品

塩ビ管

一般、HI、SGR-NA、SRA、SRB、
耐熱、電線、三層、二管路、
農水圧力、下水、カラー



SGR継手・ゲートバルブ



カラーパイプ、継手

塩ビ継手

TS、HI、DV、VUDV、耐熱、
リップ、透明、カラー、SGR
ハイゲートバルブ



HI継手



耐熱継手

3 工場変遷

昭和42年（1967）	久保田鉄工(株) 小田原工場完成 ケーブル保護用塩ビ管生産開始
昭和53年（1978）	SGR-NA管生産開始
昭和56年（1981）	ポリブデン管生産開始 松田出荷センター完成
昭和58年（1983）	ガス用ポリエチレン管の生産開始
平成元年（1989）	PM優秀事業場賞受賞
平成10年（1998）	ISO9001認証取得
平成11年（1999）	SGR-NAVH管の生産開始
平成12年（2000）	ISO14001認証取得
平成13年（2001）	リサイクル三層発泡管の生産開始
平成14年（2002）	リサイクル三層管(ソリッド三層管)の生産開始 小田原西配送センター完成
平成17年（2005）	クボタシーアイ(株)設立（※）
平成18年（2006）	生産供給体制の一層の最適化を目指し、ポリブデン管 ガス用ポリエチレン管の生産拠点変更を実施
平成21年（2009）	生産拠点再編により、耐熱パイプ・継手、TS・HI継手、 ハイゲートバルブの生産開始

※ (株)クボタ 合成管事業部とシーアイ化成(株) 管工機材事業部の事業統合によるもの。

4 環境方針

▶ ISO環境方針

クボタシーアイ株式会社 及び 株式会社九州クボタ化成は、合成樹脂を原料として、社会生活に必要な水道管、下水道管などのライフラインを社会に提供しています。その活動において、地球環境の保全が人類全体の課題であり、企業にとってその対応が重要な責務である事を認識し、環境保全に不断の努力を行います。

【 理 念 】

私たちは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざし、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

【 方 針 】

1. 製品の設計・開発、製造から出荷までの各段階において、環境保全に積極的に取り組みます。また、環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善する事によって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
2. 社会の持続的な発展に寄与できる製品の開発ならびに製造を推進します。
3. 環境関連法、条例、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. この環境方針を実践するため、環境保全中期実施計画達成に向けて、その実施状況を定期的に確認し、環境マネジメントプログラム計画の見直しを行います。
5. この環境方針を、当社で働く人 及び 当社の為に働く人に周知させると共に、各人が日常生活においても環境に配慮した行動を行うよう、環境意識の向上に努めます。
6. 地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。またこの環境方針は、私たちの姿勢を理解していただくため、一般の人にも入手可能とします。

平成23年4月22日

クボタシーアイ株式会社
製造部門 担当役員

山本 芳樹

▶ ISO認証取得状況

- 平成12年1月19日 (2000) ISO14001認証取得(審査機関:日本科学技術連盟、(株)クボタで受審)
- 平成15年1月19日 (2003) 第1回更新登録証受領((株)クボタ名で受領))
- 平成18年1月19日 (2006) 第2回更新登録証受領(クボタシーアイ(株)とクボタ松下電工外装(株)の連名で受領)
- 平成19年1月19日 (2007) 第1回サーベイランス継続合格(クボタシーアイ(株)とクボタ松下電工外装(株)の連名で受領)
- 平成20年1月19日 (2008) 第2回サーベイランス継続合格(今回よりクボタシーアイ(株)の単独受審)
- 平成20年8月28日 (2008) 第3回更新登録証受領(クボタシーアイ(株)で受領)
- 平成21年8月27日 (2009) 第1回サーベイランス継続合格
- 平成22年8月26日 (2010) 第2回サーベイランス継続合格
- 平成23年2月22日 (2011) サーベイランス 兼 組織統合審査 兼 拡大審査合格
(統合:小田原、栃木、堺、九州クボタ化成)

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2010年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO2の削減	CO2排出原単位 (T/億円)	2008	▲4%	+3.9%	×	生産拠点再編により、エネルギー消費が多い製品比率が増加したため
		CO2排出量 (T)	2008	▲4%	+20.1%	×	
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位 (T/億円)	2008	▲4%	▲ 41.9%	◎	
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	0.06%	◎	
	水資源の節約	水使用量原単位 (m ³ /億円)	2008	▲2%	▲ 16.8%	◎	
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位 (Kg/億円)	2008	▲4%	▲ 54.8%	◎	

※自己評価の基準 ◎:目標超過達成 ○:目標達成 ×:目標未達成 —:該当なし

注)環境保全中期計画のCO2排出量実績値の算定の際は、2008年度のCO2排出係数を使用しています。

環境 TOPICS

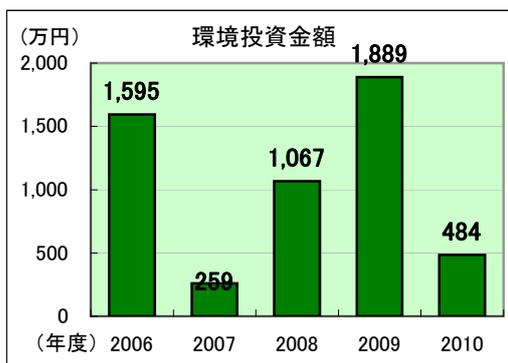
- 1) 神奈川県地球温暖化対策推進条例に基づく、対策計画書を提出しました。(平成22年11月)
- 2) 電子マニフェストの運用を開始しました。(平成23年1月)
- 3) ISO14001: 組織統合・拡大審査を受け、審査登録継続の承認を受けました。(平成23年2月)
- 4) 廃棄物の分別収集の細分化に取り組みました。
- 5) 平成23年度も地域の美化活動に参加しました。
『クリーンさかわ』(平成23年5月22日)、工場周辺ボランティア清掃活動(平成23年6月22日)

クボタシーアイ株式会社 小田原工場

6 環境会計

① 環境投資

2010年度：484 万円

送水ポンプのインバータ化ほか、
省エネを推進しました。

② 環境保全費用

2010年度：2,297 万円

原料投入口の鉛(PRTR指定化学物質)
対策として局所排気を行い環境リスクの
低減を行いました。又、冷却装置の整備を行うなど、省エネ
を推進しました。

③ 環境保全効果

- 生産量減少や省エネ推進により、エネルギー使用量、水使用量、CO₂排出量は前年度と比べ減少しました。
- 廃棄物の分別回収を更に細分化して有価物を増やし、廃棄物排出量が減少しました。

効果の内容	効果	2009年度	2010年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	285,775	278,162	▲ 7,613	▲ 2.7 %
	水使用量(m ³)	69,310	64,064	▲ 5,246	▲ 7.6 %
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	12,376	11,087	▲ 1,289	▲ 10.4 %
	SO _x 排出量(t)	0	0	0	
	NO _x 排出量(t)	0	0	0	
	ばいじん排出量(t)	0	0	0	
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.25	0.0741	▲ 0.176	▲ 70.4 %
	廃棄物排出量(t)	86.1	56.4	▲ 29.7	▲ 34.5 %
廃棄物埋立量(t)	0.1	0.3	0.2	200.0 %	

④ 経済効果

2010年度：1,324 万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	送水ポンプのインバータ化・押出機の冷却改善 ほか	1324.0 万円
ゼロ・エミッション化対策	有価物売却金額	419.0 万円
合計		1743.0 万円

クボタシーアイ株式会社 小田原工場

7 環境パフォーマンス

① 地球温暖化の防止

省エネルギー活動

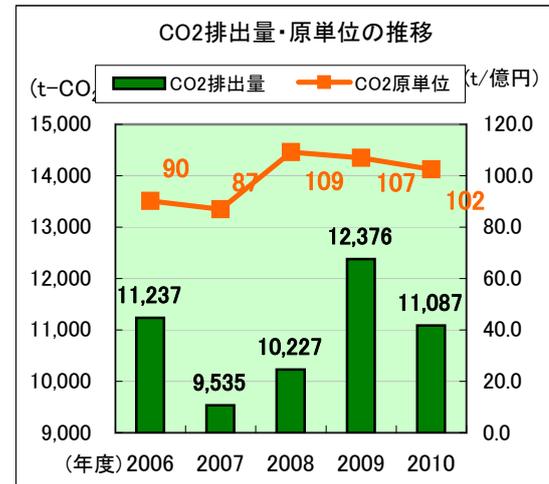
- ・生産量減少や省エネ推進により、エネルギー使用量(GJ)は前年度比2.7%減少しました。
- ・しかしながら、エネルギー消費量の多い継手製品の割合が増加したため、エネルギー使用量原単位(GJ/億円)は前年度比3.8%増加しました。

	エネルギー使用量: GJ	原単位: GJ/億円
2009年	285,775	2470
2010年	278,162	2571



CO2排出量の削減

- ・生産量減少や省エネ推進により、CO₂排出量は前年度比 1,289 (t-CO₂) 減少しました。
- ・CO₂排出原単位 (t-CO₂/億円) も前年度比 4.2% 減少しました。



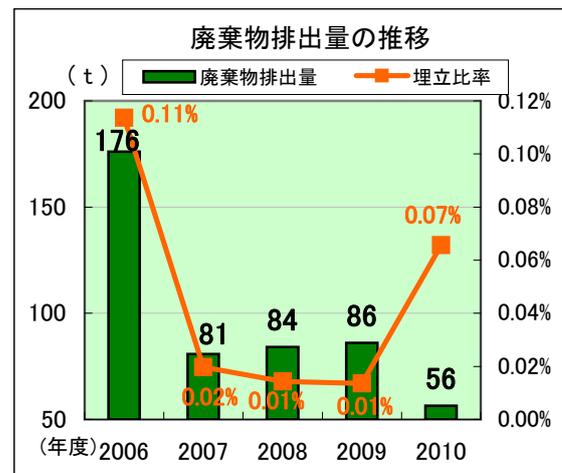
② 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

- ・分別回収を更に細分化して有価物への転用を推進した結果、廃棄物排出量(t)は前年度比34.5%減少しました。

ゼロ・エミッション化

- ・ゼロ・エミッション(埋立比率:0.5%以下)の達成を継続しています。



注: 2006年度 埋立比率(%) = 埋立量 ÷ 廃棄物排出量

2007~2010年度 埋立比率(%) = (直接埋立量 + 中間処理後最終埋立量) ÷ (有価物量 + 廃棄物排出量)

③ 有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
239	有機錫化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1 Kg
305	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65 Kg

8 環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 「クリーンさかわ(※)」

での酒匂川清掃

※主催:小田原市自治会総連合

後援:小田原市

日 付 平成23年5月22日

参加人数 18名



「クリーンさかわ」にて

名 称 工場周辺公道の清掃

日 付 平成23年6月22日

参加人数 46名



工場南側公道の清掃

クボタシーアイ株式会社 小田原工場

9 サイトデータ

▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	7,177	
水使用量	万m ³	3.65	上水
		2.75	地下水

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	11,087	
排出ガス	主要ばい煙発生施設		—
	項目	単位	規制内容 規制値 測定値
	SO _x	総量規制・ K値規制とも m ³ N/h	ばい煙発生施設なし
	NO _x	総量規制: m ³ N/h, 濃度規制: ppm	
ばいじん	g/m ³ N		
排水量	公共用水域 万m ³	2.75	
	下水道 万m ³	0.91	
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	C排水口		D排水口	
				規制値	測定値	規制値	測定値
公共用水域		pH	—	5.8~8.6	7.7~8.4	5.8~8.6	7.4~8.1
		BOD	mg/l	60	1.0未満	60	3.4
		COD	mg/l	60	1.0未満	60	6.9
		窒素	mg/l	120	0.5	120	2.5
		りん	mg/l	16	0.06未満	16	0.06未満
		六価クロム	mg/l	0.5	0.05未満	0.5	0.05未満
		鉛	mg/l	0.1	0.01未満	0.1	0.03
		COD総量規制値	kg/日	—	—	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—	—	—
下水道		pH	—	—	—	—	
		BOD	mg/l	—	—	—	
		COD	mg/l	—	—	—	
		SS	mg/l	—	—	—	

※C排水口測定値はケイミー(株)測定分

廃棄物排出量	t	56.4
埋立比率	%	0.07